

〇〇科 学習指導案

指導者 ○〇 ○〇 印

- 1 履修単位数 ○単位
- 2 実施日時 平成〇年〇月〇日 第〇時限
- 3 学 級 ○HR（〇名）
- 4 使用教科書
- 5 単元名

単元名の多くの場合は、教科者の節に対応している。

※ 指導内容のまとまりを表す単位に「単元・題材・主題」などがあるが、実技を伴う教科においては「題材」が多く用いられる。

6 単元設定の理由

- ① 生徒観・・・単元に対する生徒の認識や実態を記述する。
- ② 教材観・・・学習指導要領での目標と位置づけについて記述する。
単元におけるねらいを明確にする。
(教材によって期待される効果など)
- ③ 指導観・・・生徒観・教材観を踏まえて、指導上の留意点や工夫を記述する。

7 単元の目標

学習内容を生徒に獲得させていくための目標なので、生徒の学習活動計画との関連を見極めて、的確に記述する。
生徒主体の行動目標で書く。「～することができるようにする」「～理解する」

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

指導と評価の一体化から、評価規準を作成する

※参照 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」
(高等学校 共通教科「家庭」)平成24年3月 国立教育政策研究所

9 指導と評価の計画

- 第1次 ○○○○・・・○時間
- 第2次 ○○○○・・・○時間
- 第3次 ○○○○・・・○時間（本時 ○/○）

	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第1次	【ねらい】 生徒に身につけさせたい力について具体的に記述	●				
第2次	【ねらい】 生徒に身につけさせたい力について具体的に記述			●		

10 本時の指導目標

授業によって指導しようとしている学習内容を具体的に書くとともに、目指す生徒の姿を明確にする。文末は「～ができる」「～を理解する」などとなる。

11 本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
導入()	本時の学習課題を明確に記述 「～しよう」「～だろうか？」			
展開()				
まとめ()				

【学習活動】

生徒の側に立った文末表現を用いて、生徒が行う活動の要点を記述する。本時の目標を達成するには生徒にどのような活動をさせるのがよいか考え、このような活動をさせると、このような反応が予想されるということが分かるように記述する。文末は「～する」「～知る」「～を表現する」

【指導上の留意点】

教師の立場に立った文末表現を用いて、生徒の活動における各分節の具体的な活動内容に対応した、教師としての留意点と支援活動を記述する。
文末は「～を気づかせる」「～をさせる」

【学習活動における具体的評価規準】

「おおむね満足できる」と判断される状況を書き具体的に書く。評価の観点の中から一つ、二つ設定した方が、ねらいが明確になり適切な評価が可能となる。文末には、() してその中に4観点のうちいずれかを記入する。

次の各教科等の資料を確認してください。

【文部科学省等】

- 各教科等の「学習指導要領と解説」文部科学省
- 「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」
2012年国立教育政策研究所教育課程研究センター
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryuu/html/index_h.htm

【徳島県立総合教育センター】

- 「読解力」の育成を目指した指導事例集 ー高等学校編ー
- 「学習意欲」を高めるための授業改善例 ー高等学校編ー
http://www.tokushima-ec.ed.jp/education_document/scholastic_ability/index.html